

2021年度 森林総合研究所 公開講演会

伝えたい！森の中の放射性セシウム

～10年で明らかになったこと～

原発事故が農山村の 山菜・きのこ採りに与えた影響

東北支所 松浦 俊也





事故前の多様な山菜・きのこ料理



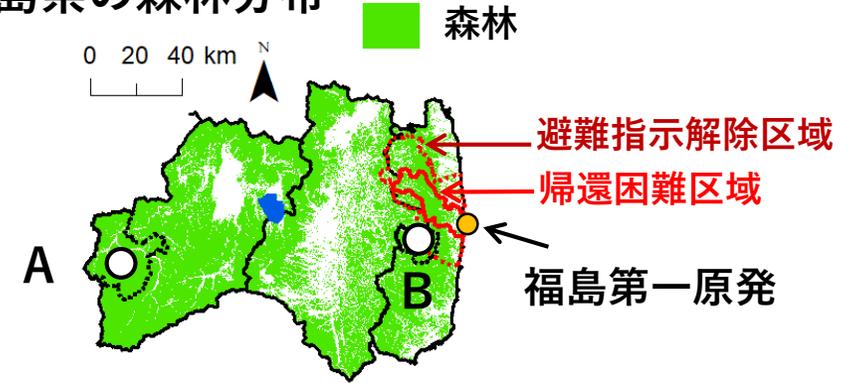
農山村における自然資源利用の減少 (山菜・きのこ採り、溪流釣り)

採取活動低下と地域文化継承

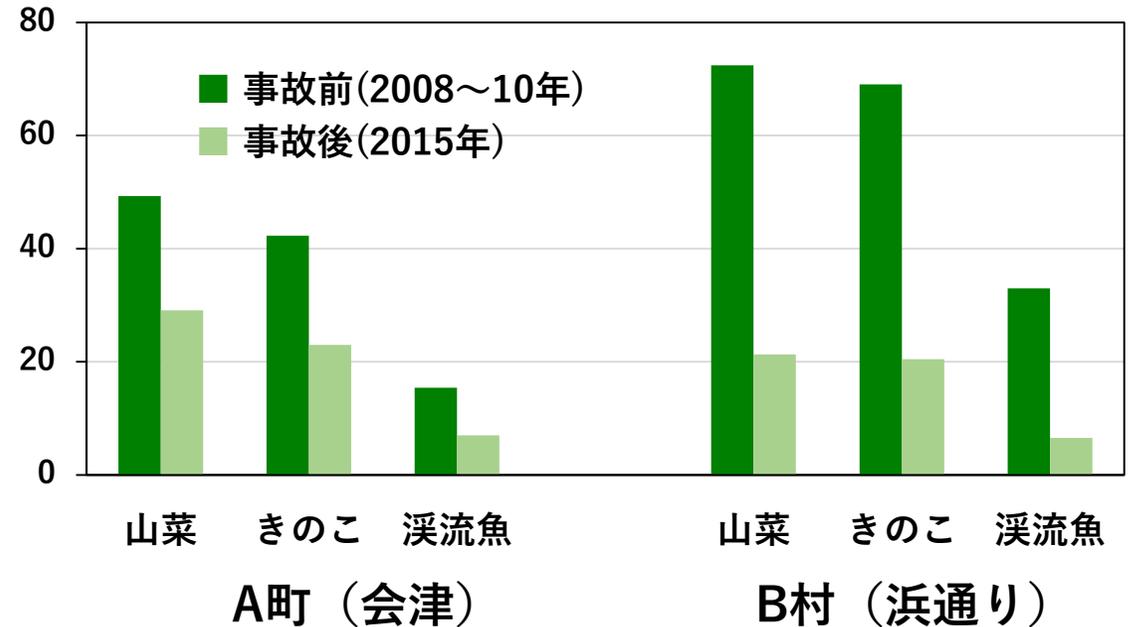
- 事故後に採取活動が急減
- 食文化、野山を歩く楽しみ、贈答を介した人間関係など、多くのものが損なわれた
- 被ばく量を低く抑えつつ、いかに地域文化を継承できるかが課題

全戸アンケートにおける採取活動変化 (出典：松浦、2021)

福島県の森林分布



活動世帯の割合 (%)

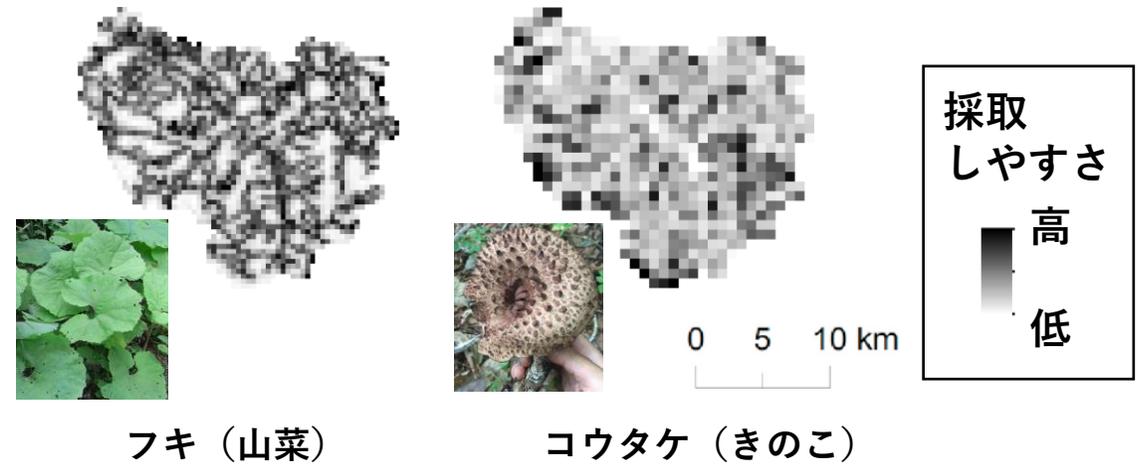


外部被ばくからみた山菜・きのこ採取地の喪失とその回復傾向

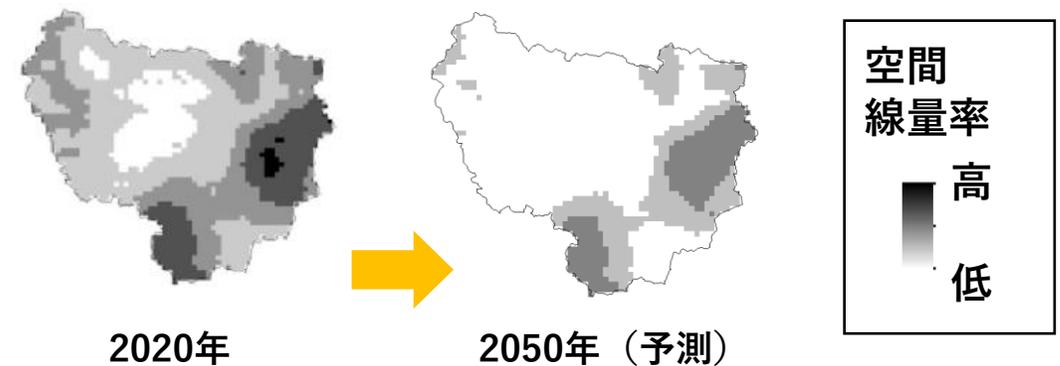
(出典：Matsuura, 2021)

- 山菜・きのこの種類により採取適地は異なる
- かつての採取適地は空間線量率の高いところにも低いところにもみられた
- 高線量地を避け、訪問頻度や滞在時間を減らせば、外部被ばく量を低く抑えられる
- 空間線量率の低下に伴い、外部被ばく量は徐々に低下していく

聞き取り調査にもとづく事故前の山菜・きのこ採取適地の推定図



空間線量率分布の変化



わかったこと

- 原発事故の放射能汚染は農山村の自然資源利用を大きく低下させた
- 山林のほとんどは除染されず、外部被ばく面から野外活動が難しくなった場所も多い
- 空間線量率の低下により、外部被ばくからみて野外活動を再開できる場所は広がりつつある
- 内部・外部被ばくを低く抑えつつ、自然資源を利用してきた地域文化をいかに継承できるが課題